



SUSTAINABLE REPORT 2020



株式会社 Green prop

▼ WEBサイト



〒812-0016

福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号

TEL : 092-432-8507 / FAX : 092-432-8508



For Sustainable Tomorrows.

持続可能な未来のために

私たちGreen propグループは
持続可能な未来環境を共創するアライアンスパートナーです。

自然と社会の美しい連鎖と循環を生み出すために
企業はもちろん、自治体、NPO法人、福祉法人など
あらゆる分野の組織体と提携し
人と人、人と社会、人と自然がもっと豊かに通じ合う未来を
パートナーと共に創りあげていきます。

目次

- 02 目次、編集方針
- 03 経営理念、行動指針、会社概要
- 04 トップメッセージ
- 05 お詫びとご報告：
日本社および中間処理施設火災事故について
- 07 Green propの歩み
- 09 事業案内：廃棄物事業
- 11 事業案内：CSR経営サポート
- 13 CSR方針策定プロセス
- 15 Green propの中長期経営計画とCSR方針
- 17 Green propのKPI
- 19 重点項目1：安全・安心
- 21 重点項目2：人財
- 23 重点項目3：資源循環
- 25 重点項目4：パートナーシップ

編集方針

当社は、2019年に事業形態を変更し中長期経営計画を見直しました。

本レポートは、新しく定めた経営計画に基づき、全面的に見直しを行ったCSR方針や計画、一部実施したCSR活動をまとめたものです。リニューアルしたGreen propのCSRをご理解いただき、取り組みの更なる向上を目指すことを目的としております。

対象組織

株式会社Green prop

発行時期

2020年6月

参考ガイドライン

環境報告ガイドライン2018年版
エコアクション21ガイドライン2017年版
SDGコンパス

お問い合わせ先

株式会社Green prop 担当：丸山
〒812-0016
福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号
フリーダイヤル：0120-52-0589
E-mail：info@greenprop.jp

経営理念

私たちは不斷に学び、
外部環境の半歩先を見極めながら、
新しい価値を創造・提供し、
社会進歩に貢献する。

行動指針

- 01 未来から今を見つめる。
- 02 お客様を徹底的に知る。
- 03 走りながら考える。
- 04 今日も笑顔の花を咲かせる。
- 05 人の役に立つことを喜びとする。
- 06 相手のそのままを受け入れる。
- 07 「儲かりそだから」では動かない。
- 08 会話の終わりに「ありがとう」。
- 09 常に地球環境を意識する。
- 10 愛を育み続ける。



会社概要

商号

株式会社Green prop

代表者

川添 克子

設立

1985年(昭和60年)

資本金

2,000万円

従業員数

38名(2020年6月現在)

拠点

本社

福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号

物流本部

福岡県筑紫野市大字永岡1315番地の10

中国支店

広島県大竹市北栄4-12

東京営業所

東京都中央区日本橋1-2-10 東洋ビル5F

大牟田出張所

福岡県大牟田市健老町472番地 大牟田エコタウン内

事業内容

廃棄物事業

廃棄物管理ワンストップサービス/廃棄物の収集運搬/
廃棄物資源循環化サービス

CSR経営サポート事業

CSRコンサルティング/環境・CSR教育/CSRレポート

その他環境・CSR分野ソリューション

省エネ設備導入など

グループ会社

株式会社ATGREEN

~未来の環境を考える。未来の環境を形にする。~

福岡県北九州市小倉北区魚町2-1-7

ACTマツナガビル5F MIKAGE1881

Sustaina green株式会社

~日本のモノづくりを調達から変えていく。~

福岡県福岡市博多区博多駅南2丁目3番1-1号

TOP MESSAGE



社会課題解決という
原点に立ちかえり、
仲間と共に、未来をつくる。

株式会社Green prop 代表取締役

川添 克子

中長期経営計画とCSR

2019年3月4日、当社中間処理施設及び旧本社(福岡県筑紫野市)にて火災事故が発生しました。近隣住民の方々や取引先の皆様など多くの方々にご迷惑をお掛けしましたことをあらためまして深くお詫び申し上げます。本事故の詳細及び対応策についてはこのあとページにてご報告させて頂きます。

ステークホルダーの皆様には、多大なご迷惑をお掛けしたにも関わらず、事故の翌日から力強い激励と多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。いくら感謝してもしきれないほどのご恩をいたいたことを、社員一同、あらためて胸に刻んでおります。

Green prop の原点「課題を解決する」

外部環境及び内部環境に大きな変化があった2019年度に、あらためて当社の歴史を振り返りました。廃棄物処理に携わるきっかけは1960年代で、自動販売機の普及とともに周囲に空き缶が散乱していました。その後、ある企業から廃棄物の処理に困っているという相談を受けたことにより、産業廃棄物処理事業をスタートしました。

この「社会課題や顧客課題を解決したい」という想いは創業当時からのスピリットであり、ブランドコンセプト「For Sustainable Tomorrows. 持続可能な未来のために」という言葉に集約されていることを改めて確認しました。SDGs※達成に向けての取り組みが広がり、社会全体で課題解決に向けた意識や行動が加速化しています。当社でできることを実行していくのはもちろんですが、同じ想いを持つ方々とパートナーシップを結び実行していくことも、これらの課題解決には重要です。今後はその成果をより意識し、パートナーと共に課題解決にチャレンジしていきたいと考えています。



SDGsとは

2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに達成すべき持続可能な開発目標のことです。途上国だけでなく先進国も含めたすべての国が取り組むべき目標であり、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

大切な仲間と共に

当社のターニングポイントとなった2019年を乗り越え、今こうして事業を継続でき、未来を考えることができるもの、社員が共に乗り越えてくれたおかげです。心から感謝しています。

これからの時代は、今まで以上に「意義」がすべての中心になっていくはずです。そんな時代を仲間たちと共に歩んでいきたいと強く思っています。正解がない問いに挑戦し続けるには、一人ひとりが自立し、自らでより良い未来を考え、一歩ずつ開拓していくことが大切です。当社のCSRは、そんな社員を育んでいくことも目的の一つとしています。また、社員が社会で活躍していくことが、当社の成長につながり、より同じ想いを持った仲間と出会うことにつながっていくと考えています。

当社にとって、CSRは未来をつくる大切な手段です。社員をはじめとした仲間と共に、持続可能な未来のために邁進してまいります。ステークホルダーの皆様には今後ともご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

お詫びとご報告 旧本社および 中間処理施設 火災事故について

2019年3月4日午後7時頃、当社中間処理施設及び本社(火災当時:福岡県筑紫野市)にて火災事故が発生いたしました。近隣住民の方々や取引先の皆様など多くの方々にご迷惑をお掛けしましたことをあらためまして深くお詫び申し上げます。この事故の重大性を真摯に受け止め、従来の経営体制や事業計画を全面的に見直しました。安全・安心を第一に、重大事故が二度と起きないよう努めてまいります。

事故概要

発生日時

2019年3月4日 19時00分頃

発生場所

株式会社Green prop 旧本社・中間処理施設
(福岡県筑紫野市大字永岡1272番14)

被害状況

人的被害:なし

物的被害:本社・中間処理施設の建屋及び設備全焼

発生原因

破碎後の廃プラスチックからの発熱

事故後の復旧

2019年3月5日

収集運搬通常運行開始

2019年3月6日

廃棄物情報管理システムを福岡支店(当時:福岡市博多区)にて復旧

2019年3月7日

罹災建屋の解体開始

2019年3月18日

火災事故に伴う産業廃棄物管理票(マニフェスト)処理対応開始

2019年3月30日

罹災建屋の解体完了

2019年4月4日

罹災廃棄物の処理完了

2019年4月10日

旧本社の電話回線復旧

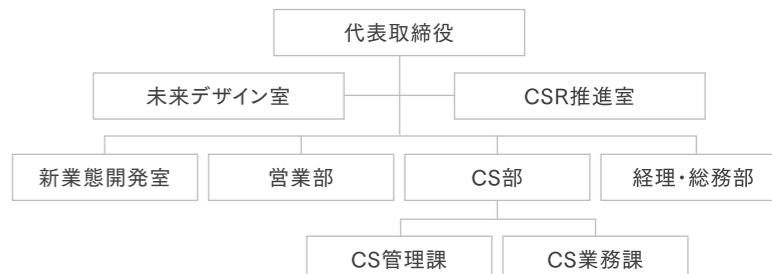
2019年5月21日

火災事故に伴う産業廃棄物管理票(マニフェスト)処理完了

事故後の新体制

組織図

各事業や組織運営の職務・役割を明確にした組織図を見直しました。コンプライアンス管理は日常的に行なうよう、各部門の職務として明記しております。また、CSR推進室は組織全体の内部監査機能を担います。



拠点

本社を福岡市博多区に移転し、筑紫野市に物流本部を設立しました。新本社は1Fにカフェスペース、3Fにセミナースペースを設置し、ステークホルダーの皆様とコミュニケーションが図れるような空間づくりも行っています。



本社(福岡市博多区)



物流本部(筑紫野市)

事業内容

廃棄物事業の一つであった産業廃棄物中間処理事業を廃止しました。

新たな廃棄物サービスとして、あらゆる環境から発生する廃棄物を適正に管理する「廃棄物管理ワンストップサービス」、多種多様な車種で廃棄物の物流を担う「廃棄物の収集運搬」、廃棄物をより資源に転換する「廃棄物の資源循環化」の3つの観点から、環境課題解決をご提案いたします。

(詳細はP9をご参照ください)



安全に向けて

当社のCSRを全面的に見直し、重点項目の一つ目に「安全・安心」を掲げ、安全な職場環境と組織運営に力を入れていきます。
(詳細はP19をご参照ください)

また、毎年3月4日を「安全の日」と設定し、安全の意識醸成と事故を起こさない予防訓練研修を行います。火災事故の教訓を忘れず、安全第一の組織形成を図っていきます。



Green propの歩み

私たちは、まだ分別廃棄のない時代から社会の課題に向き合ってきました。

1975

1990

2000

2010

1975

株式会社福岡衛生管理センター設立

当時、自動販売機の普及が進み、公園などに山積みとなった空き缶ごみが社会課題となりました。技術者であった先代が空き缶を潰す「缶ペコ機」を開発したことから廃棄物との関わりがはじまります。

「缶ペコ機」による廃棄物処理の実績で、行政から「不燃物」の処理について相談されたことを機に、当社の前身となる福岡衛生管理センターを設立しました。当時は収集されてきたビン・缶を手作業で選別していました。



1985

株式会社筑紫環境保全センター設立

公園の空き缶ごみなど、一般廃棄物処理の実績から、企業より産業廃棄物処理の相談を受け、筑紫環境保全センターを設立。産業廃棄物収集運搬の許可を取得しました。



1991

永年の障がい者雇用で労働大臣賞受賞

先代が障がい者施設の方とご縁があったこともあり、福岡衛生管理センターでは障がいの方々を雇用し、選別作業を共に行っていました。その功績が評価され労働大臣賞を受賞しました。

1996

不法投棄廃棄物のリサイクル

福岡県稲築町の不法投棄現場に移動式のベルトコンベアを導入し、現場で選別作業を行いながら再生処理を実施しました。当時は現地に設備を入れての再生処理はめずらしく注目を集めました。その功績により地域から感謝状を受領しました。

1999

焼却灰のリサイクル

廃棄物の焼却灰は埋め立てるのが常識だった時代に、処分会社と連携して、セメント原料等としてリサイクルする事業を開始しました。この焼却灰のリサイクルは、今でもGreen propの特徴的な事業のひとつです。



2000-

収集運搬事業エリア拡大
廃棄物処分業許可取得

九州から中国地方へと収集運搬エリアを広げていきました。さらに産業廃棄物の処分業許可を取得し、事業を拡大しました。

2002

会社ロゴマーク制定

お客様に親しみのある会社を目指し、事業案内やロゴマークなど会社情報を発信するためのツールを整理していきました。当時、廃棄物業界はまだ情報開示が進んでいなかったため、このような取り組みは大変喜ばれました。



ISO14001取得

環境保全への取り組みとして、旧本社工場・収集運搬業にてISO14001(環境マネジメントシステム)を認証取得しました。2005年には運送事業においても認証取得しました。



2003

廃棄物管理ワンストップサービスの開始

廃棄物に関する法改正が頻繁に行われ、廃棄物管理が複雑化してきた頃に当サービスはスタートしました。多様な品目や複数拠点から排出される廃棄物を、当社がワンストップで管理し、法令遵守や適正処理、廃棄物関連業務の効率アップに貢献していきます。

2006

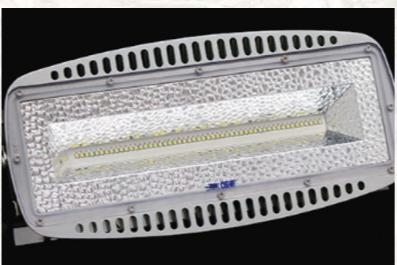
優良性評価制度基準適合

通常の許可基準よりも厳しい基準に適合した優良な産廃処理業者を認定する国の制度において、福岡県の中間処理業許可にて第一号を取得しました。

2009

省エネに向けたLED照明取り扱い開始

LED照明の設備導入による省エネを提案する事業を開始しました。



2012

3R推進全国大会にて「環境大臣表彰」受賞

積極的に環境活動の普及に取り組んでいた川添が、循環型社会形成推進功労者として環境大臣表彰を受けました。



2013

CSR経営サポート事業の開始

福岡で初の英国CMI認定サスティナビリティ(CSR)プラクティショナーの資格を取得し、CSR経営サポート事業を開始しました。

Green propに社名変更
太陽光発電事業開始

再生可能エネルギーの固定価格買取制度が制定された初年度に、保有敷地を活用して太陽光発電事業を開始しました。



2016

中国支店開設

中国エリアでの業務拡大に伴い、これまで広島県大竹市で出張所だった拠点を、中国支店として開設しました。



2016

熊本大分地震の支援

本震翌日から救援物資の調達を開始し、西原村と菊池市に届けました。地震により大量に発生した家庭ごみの一部を福岡市内の清掃工場へ運搬する支援も実施しました。



2018

中長期経営計画発表

決起集会にて、中長期経営計画「Green prop Sustainable Way to 2028」が発表されました。Green propは持続可能な社会の実現にむけてSDGsを支援し社会課題解決を目指すことが計画に盛り込まれました。



2019

中長期経営計画見直し

中間処理の廃止など事業形態の変更により中長期経営計画を見直しました。

本社移転及び物流本部新設

本社を福岡市に移転し、筑紫野市に物流本部を新設しました。



事業案内

廃棄物事業

廃棄物に関するあらゆるお困りごとを解決

事業活動を続ける限り、廃棄物は必ず発生するものです。私たちGreen propは「持続可能な廃棄物処理」を追い続けています。当社での廃棄物収集運搬はもちろんのこと、お客様の要望から「真の課題」を見つけ、その課題解決をサポートいたします。

廃棄物管理ワンストップサービス

「廃棄物管理」と一言にいっても、適正処理やリサイクル方法、業者選定、配車、マニフェストの実績管理など、その業務内容は多種多様です。その複雑な廃棄物管理をすべて一括でお任せいただけるのが、Green propの廃棄物管理ワンストップサービスです。

まるで貴社の廃棄物担当の一員として、貴社独自の「最適な廃棄物処理」の方法を構築します。

こんなメリットがあります

- 01** 累計約1,000社以上かつ全国ネットワークで知識も実績も豊富
- 02** 法律にも精通しておりリスクマネジメントができる
- 03** リサイクルにこだわった提案が可能
- 04** 窓口が一つになりご担当者様の業務負荷が低減

サービス詳細(一部)

基本サービス	業者選定
	委託先信用実績確認 委託契約書準備 法的手続き書類準備 配車調整 マニフェスト管理 請求一括管理 実務相談 運用サポート など
サプライズ	廃棄物分析手配 アスベスト等工事請負・業者手配 廃棄物分別・運用指導 現地確認代行・同行 担当者研修の開催 電子マニフェスト移行サポート 行政報告書作成支援 など



廃棄物の収集運搬

こんなメリットがあります

- 01** 広域の収集運搬が1社で可能
- 02** 多様な品目を運搬できる車両を配備
- 03** CO₂排出量実質ゼロで環境活動に貢献

保有車種・台数 (2020年6月現在)

計37台	
トレーラー	2台
ジェットパック車	12台
13tウイング車	2台
10tローリー車	1台
10tダンプ車	2台
10tアームロール車	3台
7tヒアブ車	1台
7tアームロール車	2台
4t平ボディ車	1台
4tユニック車	1台
4t冷凍冷蔵車	1台
4tパッカー車	1台
2tパワーゲート車	1台
乗用車	7台



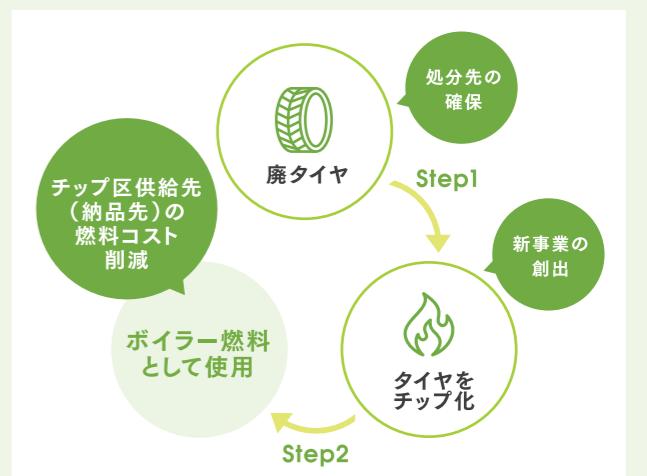
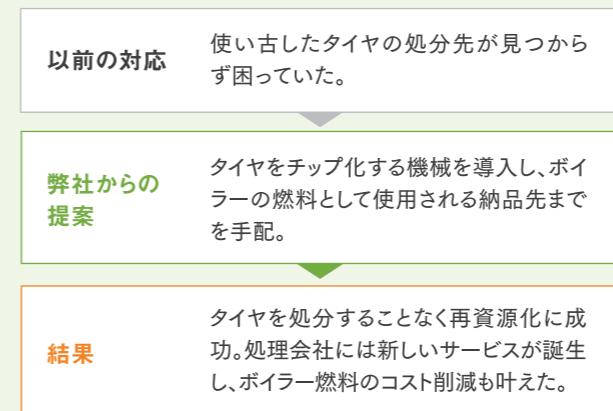
廃棄物の資源循環化サービス

こんなメリットがあります

- 01** 豊富な知識と経験で最適なご提案を実施
- 02** リサイクル法等にも精通しておりリスクマネジメントにも貢献
- 03** リサイクル製品の流通まで考えてご提案

資源循環事例

CASE. 廃タイヤの再資源化



資源循環実績数 約120品目 (リサイクルフローを構築した廃棄物の名称を当社算定)

事業案内

CSR 経営サポート

CSR経営を行うメリット

1

組織力の強化と経営の安定化

CSR方針を明確にすることは、従業員への企業ビジョンの再確認や周知・浸透にも効果があります。CSRによる従業員の意識改革は企業全体の成長にもつながり、結果的に経営の安定化へつながっていきます。

2

コンプライアンス体制の強化

コンプライアンスとは法令遵守と訳されることが多いですが、法令だけでなく企業が社会的責任を果たすことなども含まれています。そのため、CSRを策定し、発信していくことはコンプライアンスの遵守にもつながっていきます。

3

ステークホルダーの満足度向上

CSRの対象は、株主、取引先、従業員はもちろんのこと、地域住民など、企業が関係するステークホルダー(利害関係者)全てです。企業として、「どのように社会的課題に向き合い、解決を図っていくか」を発信することは、顧客満足度の向上だけでなく、ステークホルダー全体の満足度の向上に繋がっていきます。

4

企業価値・ブランドイメージの向上

CSRへの取り組みは、企業価値や企業ブランドイメージの向上にも繋がります。企業の地域社会への貢献をCSR活動報告として公開することで、企業の社会的存在の価値を証明し、企業ブランドのイメージを向上させ、競合他社と差別化も期待できます。

STEP1

戦略:CSRコンサルティング

CSR経営を行っていくには、最初にしっかりと CSR方針や CSR目標・計画の策定を行い、その後に CSR推進体制の構築・強化が重要です。様々な業界に精通した経験豊富な専門スタッフが貴社の CSR 基盤づくりを支援します。

- ビジョン・ブランドコンセプトの整理
- CSR方針とKPIの策定
- CSRマネジメント体制の整備
- 活動実施サポート



STEP2

体制構築:環境・CSR教育

CSRを実践していくのは、実際に働く社員一人ひとりです。CSRとは何か?という基礎教育から、社員の方々を牽引する推進者向け教育、その他必要なテーマに合わせた教育などの CSR カリキュラムを組み、社内で CSR が実践されていく基礎づくりをサポートします。

- CSR基礎教育
- CSR推進者向け教育
- 各テーマ別教育



STEP3

レポート:CSRレポートの企画・制作

CSR経営では、企業の取り組みをいかにステークホルダーに伝え、評価を得るかが重要です。「何を、誰に、どうやって伝えるか?」「どのように評価の声を得るか?」の最適な提案を行い、適切なコミュニケーションプランとメディア活用による、「伝わる CSR」をサポートします。

- ターゲットの選定
- コンテンツの選定
- メディアの選定(CSRレポート/Webサイト/SNS)
- フィードバック手段の選定



その他



省エネ設備導入

LED照明導入等による省エネを実現します。



カーボンクレジット

CO₂の排出について、自分たちでは削減できない部分を、他の場所での排出削減・吸収量によって埋め合わせ(オフセット)します。また、排出権クレジットの創出もサポートします。



ライフサイクルアセスメント

製品やサービスの原料調達から製造、流通、使用、廃棄に至る一生での環境に対する影響を定量的に評価します。



環境ラベリング

エコリーフ、カーボン・フットプリントの認定、手続きなどをサポートします。

CSR方針策定プロセス

当社は、2019年の事業形態の変更に伴い、CSR方針を全面的に見直しました。
事業活動で社会に与える影響やステークホルダーからのニーズの分析、
それに基づく優先課題の特定を行い、新たなCSR方針を策定しています。

Green propが考える CSR・CSVとSDGsの関係

CSRは企業を支える基盤であると考えています。そして、CSVは事業活動において習得した技術やノウハウを活かして社会課題の解決に繋がる事業を行うことです。CSRやCSVを推進していくことで、社会対応力を持つ持続可能な企業、ひいては持続可能な社会の実現を目指しています。

「持続可能な社会」となるためには、現存する様々な社会課題の解決が必要不可欠です。社会課題が集約され、様々な分野で定められた目標の集合体がSDGs(持続可能な開発目標)です。そして、それらの目標達成に向けた手法がCSR・CSVであると考えています。



CSRとは

CSR(Corporate Social Responsibility)とは「企業の社会的責任」のことです。企業が社会に存在し、活動を行うことは環境、社会、経済に何かしらの影響を与えています。企業は自社が与える影響に対して責任を持ち、地球環境や社会環境に配慮しながら経営・事業活動を行う必要があります。さらに、自社の利益だけを追求するのではなく、社会、そしてステークホルダーからの要求に対して適切な意思決定をしていかなくてはなりません。これがCSRの基本となる考え方です。

CSVとは

CSV(Creating Shared Value)は「共有価値の創造」と和訳されます。企業が本業を通じて経済的価値と社会的価値の両立を追求する活動を意味します。社会的価値とは、社会のニーズに応え、社会の抱える課題を解決する取り組みのことです。



STEP1

優先されるステークホルダーの特定・ニーズ分析

お客様や協力会社様などの取引先、社員、仕入先など、当社の組織活動で関わりあうステークホルダーをすべて整理しました。また、当社との関係の深さを当社へのニーズも含めて分析し、数値化して評価を行い、特に優先されるステークホルダーを特定しました。

優先されるステークホルダー



お客様 協力会社様 地域住民
自治体

社員

STEP2

重要社会課題の特定

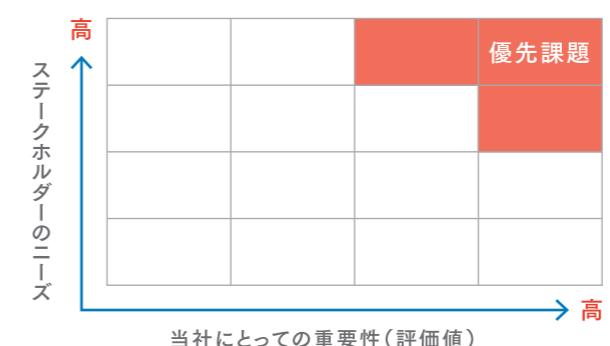
当社の経営計画や事業活動を通じて社会に影響を及ぼすような関わりのある社会課題を「環境・経済・社会」のそれぞれの観点から27項目特定し、ひとつひとつの課題に対して特に重要なものを評価してきました。

環境	経済	社会
1. 水の保全、管理	1. 革新的な廃棄物管理システム	1. ステークホルダーに対するエンゲージメント
2. 気候変動	2. サービスの価格設定	2. コンプライアンス
3. 温室効果ガスの排出削減	3. 顧客満足	3. 労働者の人権
4. 資源とエネルギー	4. サービスの品質安定化	4. 業務上の安全性
5. 環境教育	5. 公正な評価と競争力のある報酬	5. ダイバーシティ、インクルージョン
6. 環境負荷の低減	6. 地方経済の活性化	6. 従業員の健康・安全・福祉
7. 廃棄物処理が環境へ与える影響		7. 人材確保と育成
8. 生物多様性		8. 安全・防災の推進
9. 持続可能な社会への貢献		9. サプライヤーの社会・環境への影響評価
10. 事業を通じた環境問題解決への貢献		10. 働きやすい企業づくり
11. 食品廃棄物		

STEP3

優先課題(マテリアリティ)の特定

Step1のステークホルダーのニーズ分析結果とStep2の重要社会課題の評価結果を掛け合わせ、当社の優先課題(マテリアリティ)を特定しました。



環境	環境教育 環境負荷の低減 温室効果ガスの排出削減 資源とエネルギー 廃棄物処理が環境へ与える影響 事業を通じた環境問題解決への貢献 持続可能な社会への貢献
経済	革新的な廃棄物管理システム サービスの品質安定化 顧客満足
社会	コンプライアンス 業務上の安全性 安全・防災の推進 従業員の健康・安全・福祉 人材確保と育成 ダイバーシティ、インクルージョン ステークホルダーに対するエンゲージメント

STEP4

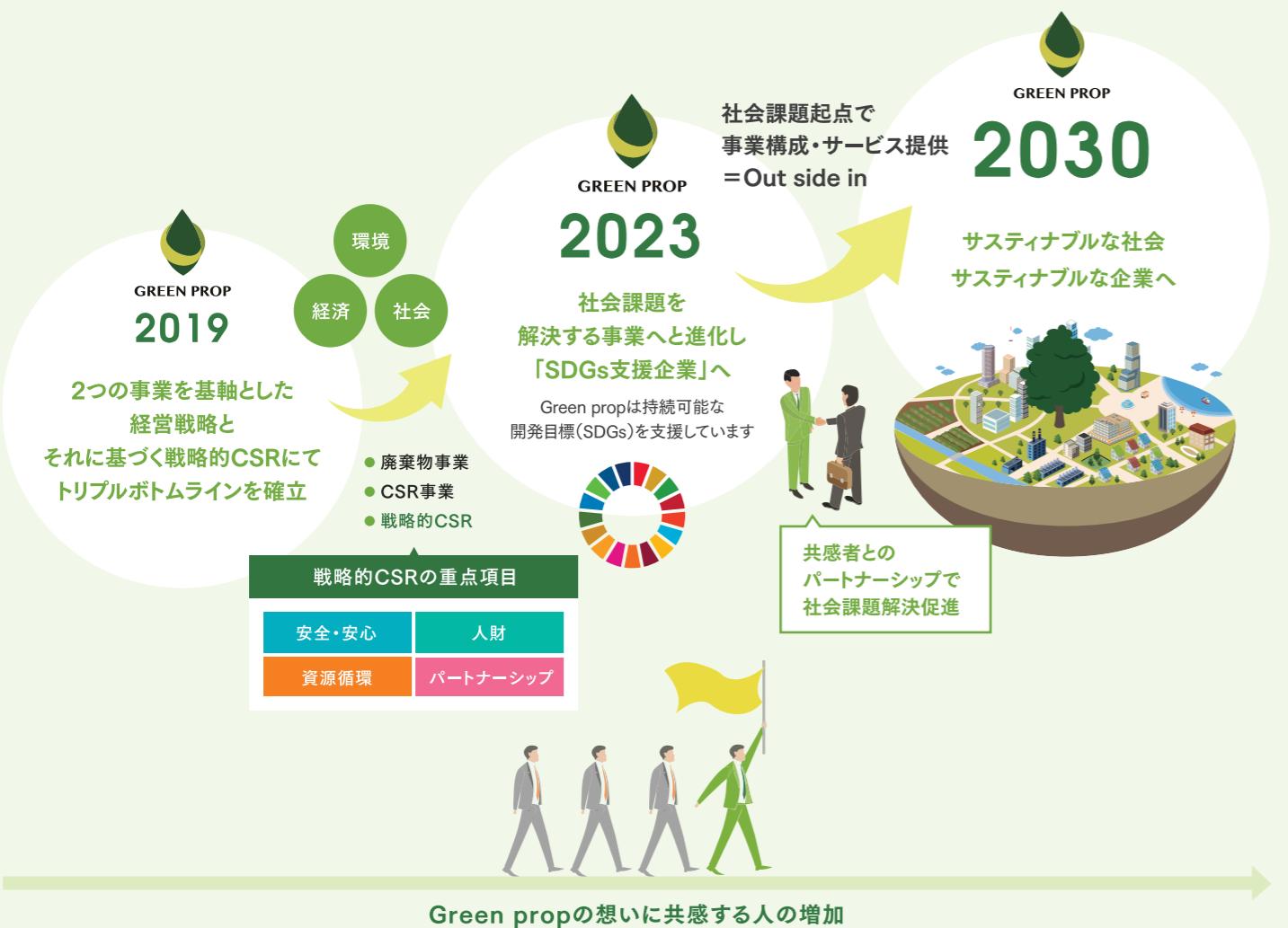
CSR方針・KPIへの反映

Step1～3の内容を基にCSR方針を策定し、具体的なCSR目標をKPIとして定めて推進していきます。

Green prop Sustainable Way to 2030

サステナブルな社会実現に向けて、Green propは環境・CSR分野から社会課題を解決する企業へと進化する
中長期経営計画を2018年に策定し、2019年に見直しを行いました。

当社のCSRは、経営計画達成に向けた重要な経営戦略の1つとして据え、重点項目を設定しました。
事業活動と密接な戦略的CSRを推進し、サステナブルな社会を実現していきます。



CSRマネジメント体制



CSR重点項目

ステークホルダーのニーズと事業活動に伴い発生する影響、Green propを取り巻く環境から関連する社会課題を捉え、4つの重点項目でCSR・CSV活動を推進していきます。

CSR重点項目	関連するSDGs GOAL	関連する優先課題 (マテリアリティ)
安全・安心 <p>コンプライアンス順守を大前提に、安全な職場環境の確保と健全な組織運営を行い、安心を創造します。</p>		コンプライアンス 業務上の安全性 安全・防災の推進 従業員の健康・安全・福祉
人財 <p>人を尊重し、人を愛し、人と共によりよい社会を形成できるよう、人財育成とダイバーシティ&インクルージョンを推進します。</p>		人材確保と育成 ダイバーシティ、インクルージョン 環境教育
資源循環 <p>限りある資源の調達から使用、廃棄までのライフサイクル視点で考え、環境負荷の少ない運営と資源循環の可能性を実現する循環型社会の形成を目指します。</p>		環境負荷の低減 温室効果ガスの排出削減 資源とエネルギー 廃棄物処理が環境へ与える影響 事業を通じた環境問題解決への貢献 革新的な廃棄物管理システム サービスの品質安定化
パートナーシップ <p>すべての活動は様々なステークホルダーの皆様とのパートナーシップにより実行できます。より強固なパートナーシップ構築を行い、サステナブルな社会を目指します。</p>		ステークホルダーに対するエンゲージメント 持続可能な社会への貢献 顧客満足

Green propの KPI

CSR・CSV活動は、KPI(Key Performance Indicators：重要な業績評価指標)を設定し管理しています。取り組みごとに担当部署を設定し、部門計画と連動させながら進捗のチェックと改善を行なうマネジメント体制で活動を推進しています。

CSR重点項目	取り組みのテーマ	関連するSDGsGOAL/ターゲット	KPI	取り組み内容	担当部署	35期目標	36期目標	37期目標
安全・安心	コンプライアンス遵守 社員の働きやすい・働きがいのある職場環境の形成	 16.5,16.7	社内規範等違反件数	1.役員が参加した部署間連携確認会議の定期開催 2.廃棄物関連法規に関する勉強会やテストの実施 3.関連資格取得の促進 4.関連法規および社内規範の遵守状況定期確認 5.クラウドシステム導入による情報の透明化と発信	CS業務課 未来デザイン室 新業態開発室	0回	0回	0回
			情報セキュリティ規範の整備	1.適切な情報セキュリティに関する認証の選定 2.認証取得に向けた規範整備	CSR推進室	—	認証取得	—
	安全な職場環境の形成	 3.6,3.9	事故および労働災害発生件数	1.ヒヤリ・ハットの共有と予防措置の実施 2.デジタル・ドレコレによる運転評価と指導 3.外部講師による安全運転講習の実施 4.作業手順書の作成と運用 5.緊急事態のルール・マニュアルの整備 6.営業車両整備ルール策定と点検実施	CS業務課 経理・総務部	0回	0回	0回
	防災体制の構築	 13.1	防災訓練回数	1.各拠点にて防災訓練もしくは実習の実施	経理・総務部 CS業務課	3回	3回	3回
			BCP(事業継続計画)の策定	1.BCP策定に向けた情報収集 2.BCP策定 3.BCP策定後の検証と見直し	CS部	BCP策定の計画	BCP策定の準備	BCP策定
	社員の働きやすい・働きがいのある職場環境の形成	 8.2	有給休暇取得率	1.有給休暇制度の見直し 2.有給休暇取得状況の周知と取得促進のための声掛け 3.業務レベル均等化ための業務マニュアル作成	経理・総務部	有給休暇取得率の把握	有給休暇取得率70%以上	有給休暇取得率70%以上
			リモートワークの環境整備	1.備品等、物理的環境整備 2.サーバーのクラウド化等ソフト環境の整備 3.業務帳票などのペーパレス化推進 4.社内ルールの策定	経理・総務部	制度準備	制度準備	制度策定
			福利厚生制度の取得率	1.現制度の整理と社内啓発 2.制度内容検討のための委員会等設置 3.制度内容検討と取得率把握	未来デザイン室 経理・総務部	現制度の整理	制度内容検討と取得率把握	取得率向上(前年比)
	未来創造型人財育成と適正評価 社員の働きやすい・働きがいのある職場環境の形成	 4.4 5.5 8.5	未来創造型人財教育制度の策定と定着	1.教育制度の見直しと策定 2.各教育コンテンツの整備 3.年間計画における教育プログラムの実行 4.定期点検を行い制度改善の実行	未来デザイン室 経理・総務部	教育制度の企画	教育制度の運用と評価	教育制度の運用と評価
	ダイバーシティ＆インクルージョン	 5.c 10.2	公正な人事評価制度の導入	1.公正な評価のための人事評価制度構築 2.人事評価制度の公正な運用	経理・総務部	制度の完成	人事評価制度の導入	制度の運用定着
人財	CSR・環境教育[CSV]	 4.7 12.8	EG(エマジネティクス)の導入と活用	1.EGテストの実施 2.EGを活用する教育コンテンツの企画 3.EGを活用した組織運営	未来デザイン室	EGの活用方法を企画	EGを活用した教育導入	EGを活用した教育の定着
			多様性の尊重	1.社会福祉法人等からの調達 2.車いす用トイレ等の設置	未来デザイン室 経理・総務部	取組2件	取組2件	取組2件
	環境負荷の低減	 7.2 12.2	CSR・環境教育等実施回数	1.CSR検定勉強会等主催セミナーの開催 2.ステークホルダーからの依頼等による講演の実施 3.本社スペースの地域開放に向けた準備	未来デザイン室 営業部 CS部	4回	10回	10回
	廃棄物排出量の低減	 11.6 12.4,12.5,12.6 14.1	売上当たり電力使用量	1.クールビズ・ウォームビズの推進 2.空調の温度設定の適正化 3.空調機の定期清掃など設備適正管理	経理・総務部	基準値把握	1%削減(前年比)	1%削減(前年比)
	社会の資源循環率向上	 9.4 11.6 12.4,12.5 14.1	売上当たり化石燃料使用量(ガソリン、軽油)	1.デジタル・ドラレコによる評価と運転指導 2.収集運搬車両の定期車両整備 3.営業車及び収集運搬車両の低燃費車導入	CS業務課 経理・総務部	基準値把握	1%削減(前年比)	1%削減(前年比)
資源循環	適正な廃棄物管理体制の構築[CSV]	 12.4,12.5,12.6	一般廃棄物排出量	1.封筒、クリアファイル、コピー紙の再利用促進 2.分別ボックス設置による分別の徹底 3.S5活動による無駄な購入等の削減 4.帳票等の電子化検討	未来デザイン室 経理・総務部 新業態開発室	1%削減(33期比)	1%削減(前年比)	1%削減(前年比)
			取引におけるリサイクル率	1.リサイクル率算定方法の整備 2.リサイクル率の把握 3.リサイクル率の高い処理フローの提案	CS管理課 営業部	算定方法の整備	現状のリサイクル率把握	リサイクル率向上(前年比)
			クラウドシステムを用いた新サービス構築	1.お客様マイページの作成 2.運用におけるお客様とのコミュニケーションニーズ収集 3.マイページ各機能のプラッシュアップと新機能追加	新業態開発室	マイページの基盤構築	マイページサービス整備完了	サービスの拡大
	社員とのパートナーシップ 社員の働きやすい・働きがいのある職場環境の形成	 17.16,17.17	集会・行事開催回数	1.組織情報の社内共有に向けた全社集会の定期開催 2.レクリエーション行事の開催	未来デザイン室	5回	5回	5回
	お客様とのパートナーシップ		ヒアリング件数	1.ヒアリングシートを活用したコミュニケーション	営業部 CS部	150件	170件	200件
パートナーシップ	協力会社とのパートナーシップ		協力会社とのコミュニケーション回数	1.年1回以上の定期訪問の実施 2.市場情報の共有	営業部 CS部 未来デザイン室	20回	40回	50回
	地域・社会とのパートナーシップ		地域・社会とのコミュニケーション回数	1.本社スペースの地域開放に向けた準備 2.イベントの企画運営 3.地域清掃の実施 4.CSR・環境分野のセミナー・講演実施 5.社会福祉法人等からの調達	未来デザイン室 経理・総務部	5回	5回	5回



安全・安心

コンプライアンス遵守を大前提に

安全な職場環境の確保と

健全な組織運営を行い安心を創造します



01

安全の日

2019年3月4日に発生した火災事故を忘れず、安全・安心を第一に事業を行うことを社員全員が胸に刻むため、毎年3月4日を「安全の日」と定め、安全に業務を行うための研修を実施していきます。

2020年の第1回目の「安全の日」では、万が一を起こさない予防対策を強化するために、外部講師をお招きし車両の日常点検実習と、日々取り組んでいるヒヤリ・ハット報告書を題材に、原因・対策の検討会を開催しました。また、座学として、私たちのいる廃棄物業界の市場規模などの現状を把握し、部門ごとにどのような価値を社会に提供できるかディスカッションを行い、今後の行動計画を示しました。



2020年3月4日 安全の日 プログラム内容	
車両整備実習	外部講師による車両整備の説明と日常点検の重要性についての講演・実習
ヒヤリハット対策	当社ドライバーが実際に体験した内容をもとに対策を協議
廃棄物事業勉強会	廃棄物処理業界の現況から自社の在り方について考え、今後の人一人ひとりの行動や安全の重要性についてディスカッションを実施



02

廃棄物の収集運搬における安全への取り組み

安全な職場環境を確保し、お客様や社員の安心を創造するため、廃棄物の収集運搬において、安全対策や運転技術向上のための各種取り組みを行っています。

2019年度は運行における安全性評価の一つであるGマーク※の更新認定を取得しました。



※Gマーク制度(貨物自動車運送事業安全性評価事業)
国土交通省が推進する「安全性優良事業所」の認定制度。トラック運送事業者の交通安全対策などへの取り組みを評価し、基準をクリアした事業所が認定される。



安全運転講習

年に1回以上、外部講師を招き安全運転講習を実施しています。



作業手順書の作成

現場別の作業手順書を整備し安全の標準化を図っています。



ヒヤリ・ハット報告書を活用した安全対策会議

月に1回の会議でヒヤリ・ハット報告書をもとに事例を共有し対策協議を実施しています。



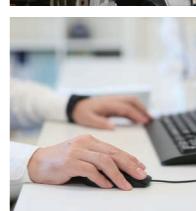
日常点検

乗車前に必ず車両整備に関する26項目をチェックし安全な運行を実施しています。



エコドライブ

CO₂排出量削減に向けて、環境にやさしい運転を実施しています。



緊急事態のルールマニュアル整備

緊急時、正しい判断と行動で迅速に対応できるようルール・マニュアルを整備しています。

03

社員の働きやすい・働きがいのある職場環境の形成

当社は社員の働きやすい・働きがいのある職場環境の形成について、右図に示す4つの観点から考え、「働きやすさ」と「働きがい」がバランスよく実現できる職場環境の形成を目指しています。4つの観点における各取り組みはCSR重点項目の「安全安心」、「人財」、「パートナーシップ」の取り組みテーマと連動して実行されます。



4つの観点	CSR重点項目	取り組みテーマ	詳細
組織内のコミュニケーション	安全・安心	コンプライアンス遵守	連携確認会議の実施、関連法規の内部監査実施
	人財	未来創造型人財の育成と適正評価	教育制度によるクレドの浸透
	パートナーシップ	社員とのパートナーシップ	シーズン振り返り会、決起集会での経営情報の共有
選択できる労働環境と福利厚生	安全・安心	社員の働きやすい職場環境の形成	在宅勤務導入に向けた計画策定、福利厚生制度の周知と検討
	人財	未来創造型人財の育成と適正評価	社員教育による技術的・職業的スキルの向上、教育制度によるクレドの浸透
公正な評価と報酬	人財	未来創造型人財の育成と適正評価	人財適正評価のための人事評価制度の構築



人財

人を尊重し 人を愛し
人と共によりよい社会を形成できるよう
人財育成とダイバーシティ&インクルージョンを
推進します



01

人事制度の新設

当社は、組織ポリシーとして「自立型未来創造主義」を掲げています。この組織ポリシーを持った人財を「未来創造型人財」と銘打ち、社員自らで自発的・能動的に課題を見つけ、解決に向けて主体的に行動できる人財を育んでいくことが、社会をもっと良くしていくために重要な事項と捉え、新しい人事制度を設計しました。

2020年度より運用を開始し、制度の定着から未来創造型人財を育んでいけるよう本格的に活動していきます。

Philosop 経営理念

私たちちは不断に学び、外部環境の半歩先を見極めながら、
新しい価値を創造提供し、社会進歩に貢献する。

Credo クレド

ブランドコンセプト、ステイトメント、行動指針



実現に向けての重点要素

未来創造型人財の育成

基本方針

仕事に対する姿勢	自分の役割に自発的、能動的に課題を見つけ、課題解決しようとする姿勢
重視するスキル	セルフマネジメント力
価値観	自分の利益を最大化することに走らない倫理観
行動原則	良いと思ったらすぐやる！

教育方針

人間力 現場スキル マネジメント

人事制度

目標管理制度

教育制度

評価制度

02

Emergeneticsの導入と活用

社員の多様性の理解・受け入れと組織力向上のために、Emergenetics研修を取り入れています。

Emergenetics(エマジェネティクス)では、脳神経科学の研究を背景に開発された心理測定に基づき、各人の思考と行動パターンが明らかになります。思考と行動パターンは人の個性を現しています。互いの思考と行動パターンを学び、違いを知ることで相互理解を飛躍的に早め、良好なコミュニケーションを実現することができます。



03

多様性に配慮した設備の導入

2019年9月に移転した本社は、社員や訪れてくださったステークホルダーの皆様が快適に過ごして頂けるような設備の導入を行いました。

1Fのトイレは車いすの方でも安心して使っていただけるように、入口・内部を広くし、安全のための手すり等も設置しています。また、どなたでも気兼ねなく使用頂くために、各階に男女共用トイレを設けています。



04

CSR検定の運営

当社活動エリアの中心である福岡の人・企業・組織に「CSR」を知っていただき持続可能な社会に向けたパートナシップを築きたいという想いから、CSR検定の福岡会場を運営しています。

検定試験前には公式勉強会も開催しており、CSRの基本的な考え方や最近のトレンドなど、CSRの基礎の解説を中心に実施しています。CSR検定の運営を通じて、持続可能性を向上させる方法のひとつであるCSRの推進をはかっています。

CSR 検定

CSR検定とは

CSR検定は、企業や組織、社会を構成する一人ひとりにCSRの正しい知識を共有することを目的としています。現在、全国25都市で実施されており、2019年10月に行われたCSR検定3級第10回試験では全国で1224名が受験しました。これは、前回の4月の試験受験者のおよそ2倍の数であり、ここ数年でCSRへの関心拡大、今後の社会におけるCSRの必要性が高まっています。

05

環境・CSRに関する講演の実施

北九州市産業廃棄物3R適正処理講習会
産業廃棄物処理業者向け人材育成セミナー（主催：北九州市）



2020年1月に、北九州市主催の産業廃棄物処理業者向け人材育成セミナーにて講演いたしました。産業廃棄物処理業界が抱える喫緊の課題のひとつである「人材確保・人材育成」について、当社での事例を中心にお話いたしました。

NPOマネジメント講座「企業とすすめる市民活動」

（主催：福岡市NPO・ボランティア交流センター あすみん）



2020年2月に、福岡のNPO団体やNPO設立を目指す方などが参加した「NPOマネジメント講座」にて講演いたしました。NPO等の連携先の一つである企業の社会貢献等活動の動向として、企業のCSR・CSVの動向や企業との連携に向けたポイントを実際の活動事例を交えてお話をしました。



資源循環

限りある資源の調達から使用、廃棄までの

ライフサイクル視点で考え

環境負荷の少ない運営と資源循環の可能性を

実現する循環型社会の形成を目指します



01

CO₂排出量削減に向けた取り組み

当社の事業活動で最もCO₂排出量が多いのは、廃棄物収集運搬時の化石燃料消費によるものです。

CO₂排出量削減に向け、エコドライブや低燃費車の導入を進めています。



エコドライブ活動の推進

収集運搬車両や営業車両などの全車両にドライブレコーダーを設置し、エコドライブ評価を行っています。

ドライブレコーダーのデータに基づき、「加速」「減速」「ハンドリング」「エコ」等の項目をもとに運転内容が点数化されます。年間平均点数がトップのドライバーを表彰する制度もあり、全社で切磋琢磨する環境を形成しています。



低燃費車の導入

車両の更新・新規購入の際は低燃費・低排ガス車の導入を進めています。

02

リサイクル率の向上

中期目標のひとつとして、当社が収集運搬・管理する廃棄物のリサイクル率100%を掲げています。これは当社が、廃棄物という概念のない、100%資源循環型社会を目指しているからです。

この目標は当社だけでは達成できず、協力会社様やお客様とのパートナシップがあってこそ実現できるものです。パートナシップの輪を広げ、持続可能な社会の形成を推進しています。



資源循環化サービスの提案

資源循環化サービスでは、お客様の事業における運行方法の見直しや新しい資源循環フローの構築まで、トータルでサポートし、廃棄物の削減、リサイクル率の向上を目指します。



当社とのお取引におけるリサイクル率の算定

廃棄物の種類や排出場所などの状況に合わせ、お客様によりリサイクル率の高い提案ができるようになります。当社が取引を行っている廃棄物のリサイクル率の算定を進めています。

03

クラウドシステムを用いた廃棄物管理サービス「お客様マイページ」の開発

廃棄物管理における情報の透明化と手続き効率化のために、クラウドシステムを活用した新たな廃棄物管理サービス「お客様マイページ」の開発を進めています。Web上でお客様の廃棄物管理に関する手続き等を行うことにより迅速なサービス提供を推進していきます。



廃棄物管理サービス「お客様マイページ」とは

お客様の廃棄物のお困りごとについて、「すぐに解決したい・対応してほしい」など

ご要望に合わせて使用いただけるサービスです。

廃棄物サービスを、時と場所を選ばず、Web上で最短で完結させることを目指しています。

サービス内容(第1次リリース)



マイページログインID発行

お客様ごとの情報が見れる専用ページ



見積自動算出システム

見積の依頼から取得までの待ち時間を大幅短縮



廃棄物・案件管理機能

お客様の廃棄物・案件の進捗管理



ビデオ通話機能

現地確認や視察、打合せを遠隔で実施



相談依頼機能

見積以外の相談・依頼受付け、進捗確認



データ保管機能

契約書・許可証・請求書データ等の保管



お知らせ一覧

お客様ごとに処理や業界に関する最新情報の発信、更新のお知らせ

お客様のメリット

- ✓ 現場や案件、廃棄物の管理確認ができる
- ✓ たくさんの業者に問い合わせる必要がない
- ✓ 何度も連絡を取り合わなくて済む
- ✓ 知りたい情報がネットですぐ見える
- ✓ 見積書が早く手に入る
- ✓ 現地確認や視察の日程調整が楽になる
- ✓ 書類等の電子化による作業効率UP
- ✓ 情報の透明化による公正な取引

▼マイページ例



処理に関する情報や
お客様ごとの
更新情報などを
お知らせします。

▼廃棄物管理機能例



ご依頼いただいた
案件の進捗確認
ができます。



パートナーシップ

すべての活動は
様々なステークホルダーの皆様との
パートナーシップにより実行できます
より強固なパートナーシップ構築を行
サステナブルな社会を目指します



01

決起集会・シーズン振り返り会の実施

社員への経営情報の共有と、社内コミュニケーションの促進を目的とした集会を定期開催し、透明性のある健全な組織運営を推進しています。



決起集会

毎年6月に、全社員参加の決起集会を行っています。経営理念やクレド、中長期経営計画と来期の経営方針を共有し、全社員が同じ方向を向いて活動を推進するための重要な機会です。各部署の目標についても発表し、一人一人の役割も明確にすることで、チーム連携を強化します。当日は親睦を深めるための食事会などもあり、社内のコミュニケーションを促進します。



シーズン振り返り会

1年を4か月ごとの3シーズンに分け、各部署がシーズン毎に目標を設定し、シーズン毎に振り返り会を実施しています。振り返り会では、各部署の目標とその評価が社員に共有され、次のシーズンに向けて社内で連携が取れるよう体制を整えています。

02

新本社を活用したコミュニケーション

2019年の9月より移転した本社は、お客様や協力会社様、地域の方々などステークホルダーの皆様にも活用して頂けることを目指しています。



1Fコミュニティスペース

壁面一面を本棚にしており、環境・CSRに関する書籍をたくさん準備しております。また、アイランドキッチンもあり、飲食も楽しむことができる空間にしています。今後は、サステナビリティに向けた活動をされている方々にも使用いただけるように準備を進めています。よりよい未来に向けてディスカッションできるようなコミュニティスペースを目指しています。



3Fセミナールーム

3Fには会議室兼セミナールームを設けています。今後、CSR検定公式勉強会などの当社主催セミナーもこのスペースで実施していく予定です。また、1F同様、ステークホルダーの皆様にも使用していただけるよう準備を進めています。

03

「なっとく!企業」認定

2020年3月に、株式会社ビスネット様より「なっとく!企業」に認定されました。「なっとく!企業」とはビスネット様が運営している、なっとく!認定事業のひとつで、消費者に信頼できる「企業」を発信し、消費者が応援することで優れた商品・サービスを広めていくものです。全国の消費生活アドバイザー（内閣総理大臣及び経済産業大臣認定資格）の方に消費者の視点で厳正に評価いただき、特に優れたものが認定されます。

審査員である全国の消費生活アドバイザーの皆様からは、消費者視点での大変貴重なご意見をいただきました。今後もお客様、そして関係者の皆様に「なっとく!」して頂ける企業であり続けられるよう精進してまいります。

審査員の皆様から頂いた評価・コメント

廃棄物事業について、環境の視点から事業を見つめなおし続けていると受け取れる点が評価できる。(60代男性)

審査を通じて改めて環境問題を意識し、企業の社会的責任や消費者の役割を考えることができた。(60代女性)

SDGsの専門家といえる立場から、自社でしっかりと取り組むとともに、コンサルティング事業(CSR経営サポート)により他社に働きかけ、社会問題の解決に努めている。(50代女性)



なっとく!企業モニター調査概要

期間	令和2年 2月3日(月)～2月17日(月)
調査員	全国の消費生活アドバイザー10人
評価項目	計5項目(設立趣旨、企業理念、安全安心への考え方、SDGsの取り組み、社外とのコミュニケーション活動)

04

「地域に密着した中小企業の持続可能性向上支援」事業の調査協力

一般財団法人CSOネットワーク様の「地域に密着した中小企業の持続可能性向上支援」事業の地域密着中小企業調査において、佐賀県内の企業調査に協力しました。本事業では、中小企業の持続可能性における現状について、現場の声を聞き、中小企業が置かれている状況や取り組みを理解し、できることを考え実践していくことを目的としています。

調査を実施したどの企業様も、サステナビリティに関する素晴らしい取り組みをされており、大変勉強になりました。中小企業にもサステナビリティやCSRの取り組みが広がり、持続可能な社会の構成員が増えていくよう、これからもパートナーと連携した活動も積極的に行っていきます。



05

お客様の課題解決に向けた取り組み

当社は事業を通じ、組織や地域社会のあらゆる課題を解決することも目標としてCSRを推進しています。お客様の課題解決のためのより良いサービスの提案を目指し、社員のヒアリング力や提案力を高める取り組みを推進しています。

ヒアリングシートを活用したコミュニケーション

お客様の現状やお困りごとを把握し、課題解決に向けた最適な提案を行うためにヒアリングシートを活用しています。

社員技術向上のためのロールプレイングの実施

社員のヒアリング力やコミュニケーション力、提案力を高めるためのロールプレイングを実施しました。お客様との面会状況を設定し、どのように話を進めればわかりやすく伝わるか、研鑽を続けています。

